

科目名	権利擁護と成年後見制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	安永 勝代		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	相談援助活動と法との関わりについて学ぶ。相談援助活動において必要となる成年後見制度(後見人等の役割を含む)について学ぶ。社会的排除や虐待等の権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				相談援助活動と法との関わりについて説明できる。	
	○	○				成年後見制度について説明できる。	
	○	○				社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症等の日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座「権利擁護と成年後見制度」における(中央法規出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	日本国憲法 人権				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	日本国憲法 統治機構				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	行政法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	民法 財産法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	民法 家族法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	成年後見制度 法定後見①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	成年後見制度 法定後見②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	成年後見制度 任意後見				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	日常生活自立支援事業				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	成年後見制度利用支援事業				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	権利擁護に関わる組織・団体				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	権利擁護に関わる専門職の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	成年後見活動の実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	権利擁護活動の実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	まとめ・振り返り						
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2) 宿題・レポートを実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		50%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は科目履修認定を行わない。						

科目名	相談援助の理論と方法Ⅳ						
科目名(英)	Theory and method of consultation assistance Ⅲ						
単位数	2	時間数	30	担当者	前田浩明		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	この科目は、社会福祉士の養成科目であり、3年間の集大成としての科目であるため、改めてソーシャルワークとは何か、ソーシャルワークの歴史と現状、未来について考える。同時に残り半年で現場に出る学生たちに、自分たちは専門職として働くと言う自覚を養い、プロとして働けるような知識と価値を身につけてもらいたい。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					ソーシャルワークの「価値」について学び、同時にソーシャルワーク理論と方法について説明できる。	
		○				「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
		○				各分野のソーシャルワークの歴史と現状、未来について説明できる。	
		○				ソーシャルワーカーをめざすために自分自身を振り返ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ソーシャルワークとは何か？各分野のソーシャルワーク			理解度確認テスト		
	2	専門職の役割			映像鑑賞→グループワーク		
	3	専門職の役割			映像鑑賞→グループワーク		
	4	ソーシャルワークの新しい分野～更生保護・刑務所・少年院等			映像鑑賞→グループワーク		
	5	司法福祉のこれから			テキストの該当部分を読むこと		
	6	メディカルソーシャルワーカーとはどのような職業なのか			テキストの該当部分を読むこと		
	7	ホームレス支援の実際(巡回ふくおか相談員による講演)			配布プリントを事前に読んでおくこと		
	8	現代社会とソーシャルワーク～格差社会			講義→グループワーク→講義		
	9	現代社会とソーシャルワーク～格差社会			講義→グループワーク→講義		
	10	障害者福祉の今とこれから①			講義→グループワーク→講義		
	11	障害者福祉の今とこれから②			講義→グループワーク→講義		
	12	地域社会の今とこれから①			講義→グループワーク→講義		
	13	地域社会の今とこれから②			講義→グループワーク→講義		
	14	まとめ			講義→グループワーク→講義		
15	正試験対策						
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)内容の理解度。 (3)定期試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	毎回の感想文	○	◎		◎		10%
	授業への参加度				◎		30%
	意見発表・グループワーク	○	◎		◎		30%
	出席状況				◎		30%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、評価の対象としない。						

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	15	担当者	廣田 悦子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 3年						
授業概要	第4巻(2学年)と第5巻(本学年:3年生)は同一の科目であり、連動している。第5巻のねらいとしては、『相談援助活動の展開、地域移行支援、地域を基盤にした相談援助の主体と対象、ケアマネジメント、地域を基盤にした支援とネットワーク等からなる。』“地域を基盤に”が強調されているように、第5巻では地域を基盤にした支援や展開の基本的な考え方や必要な技術を中心に授業を行う。 ※ 新精神保健福祉士養成講座 第5巻「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」“はじめに”を参照。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○				1、精神障害を対象とした相談援助技術(個別援助・集団援助の過程と相談援助に係わる関連援助や精神障害者と家族の調整および家族支援を含む)の展開について説明できる。		
	○				2、精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方や支援体制の実際について説明できる。		
	○				3、地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用およびケアマネジメント、コミュニティワーク(地域相談援助に係わる組織、団体、関係機関および専門職との連携についての理解を含む)の実際について説明できる。		
	○				4、地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援(地域精神保健活動)の意義と展開について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	テキスト:精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ(中央法規 第5巻) 参考図書:授業中に紹介する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	2	Ⅴ:地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方 1、地域ネットワーク				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	3	2、アウトリーチ 3、地域生活支援事業と訪問援助				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	4	4、セルフヘルプグループおよび家族会 5、精神保健福祉ボランティアの育成と活用				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	5	Ⅵ:精神障害者のケアマネジメント 1、ケアマネジメントの原則 2、ケアマネジメントの意義と方法				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	6	3、ケアマネジメントの展開過程 4、チームケアとチームワーク				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	7	5、事例による精神障害者ケアマネジメントの事例				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	8	Ⅶ:地域を基盤にした支援とネットワーク 1、地域を基盤にした支援の概念と基本的性格				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	9	2、地域アセスメントとBSCおよびSWOT分析				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	10	3、地域を基盤にした支援の具体的展開				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	11	4、事例による地域を基盤にした支援の検討				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	12	Ⅷ:地域生活を支援する包括的支援の意義と展開 1、包括的な支援(地域精神保健福祉活動)の意義と展開				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	13	2、事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	14	後期授業 振り返り				テキストの該当部分を読んでおくこと	
15	総括				テキストの該当部分を読んでおくこと		
評価方法	① 出席率(国家試験受験に基づく法定授業なので出席は10回以上であること) ② レポート(指示された日時までに提出) ③ 態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	宿題・レポート	◎					10%
	授業態度・参加度				◎		10%
履修上の注意	1. 国家試験に必要な科目であるため、出席は10回以上である。 2. 授業中にスマホ等を机の上に置かない、触らない。授業に必要な場合は教員が指示する。						

科目名	情報処理Ⅱ						
科目名(英)	Information Processing Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岡部 充子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科・3年						
授業概要	言葉だけでは伝わりにくい内容を相手により深く理解してもらえるように、プレゼンテーションソフトの代表格である『PowerPoint』を使用して表現力豊かなスライドの作成方法を身につけます。また、単にスライドを作成するだけでなく、相手に伝わるプレゼンカや、PowerPointを利用した企画書やポスターなどを作成します。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				PowerPointの基本操作ができる	
		○				相手に伝わるようにシナリオが作成できる	
		○				相手に伝わるスライド作成ができる	
			○			課題演習など自主的に取り組むことができる	
テキスト・教材 参考図書	・FOM出版 情報リテラシー入門編 Windows8.1 Word2013 Excel2013 PowerPoint2013						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス、PowerPoint基礎知識				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	2	PowerPoint基本操作(1)				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	3	PowerPoint基本操作(2) 見やすい表、グラフ、図の操作				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	4	演習(1)ポスター、チラシ作成				ポスター、チラシの原案を作成しておくこと	
	5	演習(2)ポスター、チラシ作成				ポスター、チラシの原案を作成しておくこと	
	6	PowerPoint基本操作(3) 画面切り替え、アニメーション				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	7	中間課題-これまでの理解度を確認するテストと解説				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	8	プレゼンテーションとは				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと	
	9	発表のためのシナリオ、企画書作成				シナリオの台本となる原稿を作成しておくこと	
	10	演習(4)発表スライド作成(1)				シナリオに沿ったスライドを作成すること	
	11	演習(5)発表スライド作成(2)				シナリオに沿ったスライドを作成すること	
	12	演習(6)発表スライド作成(3)				シナリオに沿ったスライドを作成すること	
	13	発表(1)				指定時間内にプレゼンができるようにリハーサルしておくこと	
	14	発表(2)				指定時間内にプレゼンができるようにリハーサルしておくこと	
15	定期試験				テキストのポイントを復習し、理解不足を補っておくこと		
評価方法	(1)授業内で毎回演習課題、総合演習を実施 (2)中間課題を実施 (3)定期試験を実施 以上を、下記の割合で評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎	○			60%
	小テスト(中間課題)		◎	○	○		20%
	発表・作品		◎		○		20%
履修上の注意	・わからないことは質問して授業内で解決できない場合は復習して次の授業に臨みましょう。 ・出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格はありません。						

科目名	就職実務Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感のもてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	就職活動指導①(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと		
	2	就職活動指導②(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)			説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと		
	3	就職活動指導③(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	4	就職活動指導④(履歴書作成)			履歴書に記載する内容をまとめておくこと		
	5	就職活動指導⑤(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	6	就職活動指導⑥(履歴書作成・添削)			履歴書の下書きをしておくこと		
	7	就職活動指導⑦(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
	8	就職活動指導⑧(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
	9	就職活動指導⑨(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
	10	就職活動指導⑩(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
	11	就職活動指導⑪(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
	12	就職活動指導⑫(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
	13	就職活動指導⑬(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
	14	就職活動指導⑭(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと		
15	就職活動指導⑮(履歴書添削・面接対策)			履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと			
評価方法	(1)提出物は各期限を設定する (2)ホームワークを数回実施する (3)自習・行事を数回実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合となる場合は単位未取得となる						

科目名	金曜ゼミⅡ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	中山かおり
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	就職内定に向けて、施設や事業所、会社等において自習実習を計画的に実施する。						
授業形式	講義:		演習: △	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		希望就職施設や企業についての理解を深め、内定につなぐことができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	2	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	3	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	4	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	5	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	6	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	7	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	8	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	9	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	10	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	11	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	12	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	13	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
	14	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)					
15	自主実習(社会福祉施設や福祉事業所や一般企業等)						
評価方法	R評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				○		70%
	活動報告書				○		30%
履修上の注意	活動報告書がない場合は履修認定しない。						

科目名	福祉行財政と福祉計画						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大坪秀生		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●単なる座学で終わらない、グループワークやディスカッションに取り組み言語化していく。 ●専門科目のみに収まらない「社会福祉士」としての職業倫理を学び考える。 ●社会人としての心構えを学び意識していく。 						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○	○	行政や財政が自分たちの生活にどのように関わっているのかを知り、言語化できる。	
	○	○		○	○	行政用語や仕組みを学ぶことで身近に感じ、それが活かされる生活に場面をイメージできる。	
	○	○		○	○	財源や税金の在り方を学ぶことで、お金の大切さや税金の意義を知り、実際の生活に結び付けることができる。	
	○	○		○	○	計画の立て方やその後に行うことを学び、実生活に活かし目標を達成に向けて取り組むことができる。	
	○		○	○		進路について真剣に考え、就職等に向けて計画に基づいて行動することができる。	
テキスト・教材 参考図書	◎新社会福祉士養成講座『福祉行財政と福祉計画』 ○社会福祉士養成講座研修員会 中央法規 時事話題						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			この科目の注意事項を伝えます		
	2	福祉とは その成り立ち			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	3	福祉と制度			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	4	行政の骨格			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	5	福祉行政の組織			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	6	社会福祉基礎構造改革			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	7	行政の相談窓口			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	8	予算と財政			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	9	知識チェック			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	10	計画とは？			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	11	福祉におけるニーズ把握			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	12	福祉計画の理論と技法			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	13	福祉計画における住民参加			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	14	福祉計画の目的と意義			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
15	まとめ 振り返り						
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト・レポート	◎	○				10%
	グループワーク・発表	◎	○		◎	○	20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度						
科目名(英)	support for low income labor and welfare benefit service						
単位数	2	時間数	30	担当者	前田浩明		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科						
授業概要	低所得者の生活実態と福祉需要、その背景にある社会経済状況、および生活保護制度や低所得者対策、関連する雇用・住宅等の諸施策等について学び、福祉専門職として必要な生活保護制度や関連諸制度に関する知識を習得するとともに、これらの分野における福祉専門職の役割、他職種との連携に関する知識についても習得する。 尚、本講義では、AL(active learning)の手法を活用しながら進めていく。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					公的扶助の概念と範囲意義と役割を説明できる。	
	○	○				ホームレスや低所得者を取り巻く社会環境について説明できる。	
	○					生活保護制度の理念や基本的な運用方法について説明できる。	
	○					生活困窮者自立支援法の制度や実施体制について説明できる。	
	○					その他生活困窮者に対する諸制度・サービスについて説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房テキストブック編集委員会 介護福祉士 人間と社会編 吉賀成子監修						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション～「貧困・生活困窮」の実態を理解する～ VTR視聴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	貧困と格差の現状を知る				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	公的扶助の概念・意義・役割/社会保障との違い				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	公的扶助制度の歴史①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	公的扶助制度の歴史②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	生活保護制度の仕組みと動向①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	生活保護制度の仕組みと動向②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	VTR視聴「健康で文化的な最低限度の生活」扶養義務①				生活保護制度について事前学習をしておくこと	
	9	VTR視聴「健康で文化的な最低限度の生活」扶養義務②				生活保護制度について事前学習をしておくこと	
	10	生活困窮者支援の現場を知る(巡回ふくおか訪問)				福岡市のホームレス支援体制について調べておく	
	11	低所得者対策の概要①～生活困窮者自立支援法～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	低所得者対策の概要②～生活福祉資金貸付制度他～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	生活保護制度の運営実施体制と関係機関・団体(福祉事務所の組織と役割)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	生活困窮者支援現場(抱撲館福岡)見学				福岡市の生活困窮者支援体制について調べておくこと	
15	子どもの貧困の現状と対策～スクールソーシャルワーカーの現場～				スクールソーシャルワークの実際について学ぶ		
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	授業感想(小レポート)	◎	○				20%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	5回以上欠課した場合は単位認定(評価)を行わない						

科目名	福祉サービスの組織と経営						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理科 3年						
授業概要	措置制度の時代からの名残であろうか現在でも通常のサービスと福祉サービスを別物として捉え、誤った理解がされている。世間だけでなくサービス提供する側でさえも多くの者が未だにその認識のままである。この授業では、契約制度の福祉サービスは今や身の回りにある一般のサービスと何ら遜色ないことを理解し現在の福祉サービスの概要だけでなく、組織や経営面まで学んでいく事で現場及び経営者側の両方の視点を身に付け、社会で応用できる力を養っていく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					福祉サービスの概要について説明することができる	
	○					組織の概要を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	サービスの理解					
	2	医療保険制度の理解-診療・休職に関する費用					
	3	医療保険制度の理解-出産に関する費用					
	4	医療保険制度の理解-死亡に関する費用					
	5	年金保険制度の理解-被保険者の種類					
	6	年金保険制度の理解-老齢年金					
	7	年金保険制度の理解-障害年金					
	8	年金保険制度の理解-遺族年金					
	9	労働者災害補償保険制度の理解-概要・認定条件					
	10	労働者災害補償保険制度の理解-医療分野					
	11	労働者災害補償保険制度の理解-年金分野					
	12	労働者災害補償保険制度の理解-休職分野					
	13	雇用保険制度の理解-概要					
	14	雇用保険制度の理解-諸制度					
	15	全体のまとめ					
評価方法	(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会調査の基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	郡嶋かおる		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理科 3年						
授業概要	社会調査に携わったことがほとんどないと思われるが、今後ますます社会福祉専門職にとって重要となる。身近な問題や起こり得る生活課題を扱ながら、実際に調査の企画から結果考察までの一連の流れを体験することで実感の伴う知識の習得を目指す。①社会調査の意義と目的、②統計法(社会調査における倫理および個人情報保護)、③統計手法、④量的調査の方法、⑤質的調査の方法、⑥社会調査の実施にあたってのITの活用等						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					社会調査の意義・目的を説明することができる。	
	○					社会福祉領域の社会福祉調査の重要性を説明することができる。	
	○					社会調査にかかわる法律や倫理の重要性について説明できる。	
	○					量的・質的調査方法を説明できる。	
	○					社会現象の背景を推察し、「問い」をたてることができる。	
	○					初歩的な統計分析のいくつかを理解し活用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	参考図書 米川和雄『ソーシャルワーカーのための社会調査の基礎 入門から社会福祉士国家試験対策まで』北大路書房 斎藤嘉孝『社会福祉調査 企画・実施の基礎知識とコツ』新曜社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	①社会調査の意義、目的、②社会調査の対象、③ソーシャルワークと社会調査					
	2	①社会調査のはじまり②生活改善にかかわる社会調査②社会福祉の歴史からみる社会調査の必要性③イギリスの社会福祉の歴史から学ぶ。					
	3	①社会調査における倫理・個人情報保護・社会福祉士会倫理綱領、知的誠実性等、②先行研究統計法				小テスト①	
	4	①調査テーマ設定、②先行調査・先行研究確認、③調査票作成				課題①:自分の知りたい調査テーマを考える	
	5	自分についての疑問点を知る				課題①をもって授業に参加。 図書館活用	
	6	①質問紙とは②回答方法とデータ収集法③質問項目の作り方と留意点				小テスト②	
	7	①量的調査と活用例、②量的データの集計(コーディング、単純集計と記述統計、度数分布表、クロス集計表)					
	8	①一体比較法を用いた調査の企画、②調査票の作成					
	9	①統計的分析方法(有意確立における帰無仮説と対立仮説)②記述統計③推測統計					
	10	①質的調査と活用例②データ収集方法のいろいろ(観察法、面接法文献の利用)、③質的調査の記録方法と留意点				課題:「将来への不安」 についてカードに記入してくる。	
	11	①質的データの整理と分析方法(事例研究、KJ法、エスノグラフィー、GT法)				課題の「将来の不安」を持ってくる。それを手掛かり 授業を進行する。	
	12	グラウンデッド・セオリーを用いた理論の構築				ITで資料を集める「自分の住む町の地域福祉計画」 をダウンロードし概観する	
	13	①統計資料の閲覧:総務省統計局・厚生労働省等、②ITを利用した調査の展開と問題点、②演習:地域福祉計画を読もう!				小テスト③	
	14	結果と報告②図表の用い方(棒グラフ、ヒストグラム、円グラフ、帯グラフ、折れ線グラフ、レーダーチャート等)					
15	まとめ 試験に向けて				小テスト④		
評価方法	(1) 授業のなかで小テストを4回実施。 (2) レポートを2回実施。 (3) 定期試験(筆記)を実施。これらをふまえ下記のように評価。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	◎				10%
	レポート	○	◎		◎		10%
発表・作品				◎		10%	
履修上の注意	状況によって授業内容を変更することがある。授業を円滑に進行するためには、課題は必ず作成して来ること。 スマホ等の携帯電話は、カバンの中に片付けておくこと。積極的な発言と質問を期待します。 ※5回の欠席で定期試験を受ける権利は消滅することを理解しておくこと。						

科目名	相談援助演習Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	大川亜由美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 3年						
授業概要	社会福祉士養成課程の科目や実習を土台として、専門的な知識と技術および理論をロールプレイング等を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論家し体系立てていくことができる能力を滋養する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			ソーシャルワークの基礎実践力を、事例検討やフィールドワークで身につける。	
	○	○	○			卒業研究を通して、社会問題の現状とソーシャルワークの視点からの課題を見抜けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	ハンセン病療養所 フィールドワーク4			事前配布プリントを確認すること		
	17	自分史作成③			事前配布プリントを確認すること		
	18	卒業研究③			事前配布プリントを確認すること		
	19	自分史作成④			事前配布プリントを確認すること		
	20	卒業研究④			事前配布プリントを確認すること		
	21	自分史作成⑤			事前配布プリントを確認すること		
	22	自分史作成⑥			事前配布プリントを確認すること		
	23	卒業研究⑤			事前配布プリントを確認すること		
	24	卒業研究⑥			事前配布プリントを確認すること		
	25	卒業研究⑦			事前配布プリントを確認すること		
	26	卒業研究⑧			事前配布プリントを確認すること		
	27	卒業研究⑨			事前配布プリントを確認すること		
	28	卒業研究⑩			事前配布プリントを確認すること		
29	卒業研究⑪			事前配布プリントを確認すること			
30	卒業研究⑫			事前配布プリントを確認すること			
評価方法	卒業研究を、定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○		◎	○	100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	相談援助演習Ⅲ-①						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60	担当者	大川亜由美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	社会福祉士養成課程の科目や実習を土台として、専門的な知識と技術および理論をロールプレイング等を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論家し体系立てていくことができる能力を滋養する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		ソーシャルワークの基礎実践力を、事例検討やフィールドワークで身につける。	
	○			○		卒業研究を通して、社会問題の現状とソーシャルワークの視点からの課題を見抜けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自分史作成①			事前配布プリントを確認すること		
	2	卒業研究①			事前配布プリントを確認すること		
	3	自分史作成②			事前配布プリントを確認すること		
	4	卒業研究②			事前配布プリントを確認すること		
	5	ハンセン病①			事前配布プリントを確認すること		
	6	ハンセン病②			事前配布プリントを確認すること		
	7	ハンセン病③			事前配布プリントを確認すること		
	8	ハンセン病④			事前配布プリントを確認すること		
	9	ハンセン病⑤			事前配布プリントを確認すること		
	10	ハンセン病⑥			事前配布プリントを確認すること		
	11	ハンセン病⑦			事前配布プリントを確認すること		
	12	ハンセン病⑧			事前配布プリントを確認すること		
	13	ハンセン病療養所 フィールドワーク1			事前配布プリントを確認すること		
	14	ハンセン病療養所 フィールドワーク2			事前配布プリントを確認すること		
15	ハンセン病療養所 フィールドワーク3			事前配布プリントを確認すること			
評価方法	卒業研究を、定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○		◎	○	100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	相談援助演習Ⅲ-②						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	大川亜由美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 3年						
授業概要	社会福祉士養成課程の科目や実習を土台として、専門的な知識と技術および理論をロールプレイング等を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論家し体系立てていくことができる能力を滋養する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			ソーシャルワークの基礎実践力を、事例検討やフィールドワークで身につける。	
	○	○	○			卒業研究を通して、社会問題の現状とソーシャルワークの視点からの課題を見抜けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	ハンセン病療養所 フィールドワーク4			事前配布プリントを確認すること		
	17	自分史作成③			事前配布プリントを確認すること		
	18	卒業研究③			事前配布プリントを確認すること		
	19	自分史作成④			事前配布プリントを確認すること		
	20	卒業研究④			事前配布プリントを確認すること		
	21	自分史作成⑤			事前配布プリントを確認すること		
	22	自分史作成⑥			事前配布プリントを確認すること		
	23	卒業研究⑤			事前配布プリントを確認すること		
	24	卒業研究⑥			事前配布プリントを確認すること		
	25	卒業研究⑦			事前配布プリントを確認すること		
	26	卒業研究⑧			事前配布プリントを確認すること		
	27	卒業研究⑨			事前配布プリントを確認すること		
	28	卒業研究⑩			事前配布プリントを確認すること		
29	卒業研究⑪			事前配布プリントを確認すること			
30	卒業研究⑫			事前配布プリントを確認すること			
評価方法	卒業研究を、定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○		◎	○	100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	卒業研究						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中山かおり		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科3年						
授業概要	3年間の養成課程の集大成として自らテーマを選び、真実を探求して行く姿勢や、論理的、客観的に物事を考えて行く思考力、分析力、文章力等を養い、ソーシャルワーカーと言う専門職につく上で大切な能力を身に付けることを目的としている。また、グループで研究を行うことを通して共同で物事を進めて行くためのチームワーク力や、さまざまな社会資源を発見する力なども養いたい。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				人間や社会に対して興味関心を持ち、深く物事を追求していくことができる。	
		○				「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
		○				心理を探求し、客観的・論理的に考えることができるようになる。	
	○					文章を読んで理解し、必要な部分を抽出し、整理してまとめる事ができる。	
○					聞いている人に分かりやすく説明・発表することができる		
テキスト・教材 参考図書	それぞれの研究に必要な文献						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	卒業研究の目的と方法について					
	2	テーマの選定					
	5	テーマ決定とグループの決定					
	6	各グループでの研究活動開始					
	7	中間発表に向けて研究					
	15	中間発表					
	20	本発表に向けて論文の完成					
	26	発表に向けてパワーポイントの作成					
	28	本発表					
	29	本発表					
	30	本発表					
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)内容の理解度。 (3)卒業研究自体を評価の対象とするため定期試験は実施しない。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	テーマに対する理解		◎		◎		30%
	論文の作成	◎	◎		◎		30%
	発表の方法と技術	○	◎		◎		30%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	研究に対する姿勢や、チームでの協力の度合いを重要視する。						